

## 大学院へ行こう

組織再建口腔外科学分野 大学院2年 小林 雅

組織再建口腔外科学分野の小林雅と申します。今回「大学院へ行こう」をテーマに執筆の機会をいただきましたので、大学院進学について悩んでいる学部生・研修医の皆さんの参考になれば幸いです。

私が大学院進学を決めたのは、臨床研修時です。学部生の頃は口腔外科に興味はあっても実際の診療や手術を経験する機会は多くなく、研修医の期間に挑戦してみようと思い、研修先を口腔外科に絞りました。もし向いていなくても研修期間を耐えてまた進路を考えなおそうと思っていました。しかし実際に研修が始まると、口腔外科臨床の面白さと口腔再建外科の雰囲気惹かれてすぐに入局を決めました。

入局後1年目は、臨床経験を積ませていただきました。入局当時は人手が少なかったこともあ

り、本当にたくさんの症例・処置に関わらせていただきました。様々な疾患を広く経験し、また当科で症例数の多い顎矯正手術などは繰り返し経験させていただくなかで、口腔外科の裾野の広さと奥深さを学び、本当に楽しい一年を過ごしました。

今年度からは、せっかく大学院に入ったからには大学院でなければ経験できないことをやってみたいと思い、生体組織再生工学分野で基礎研究に挑戦しています。

大学院は自分だけでは経験できないことや挑戦できないことを、やってみようと思える環境が整っているように思います。進路に迷う人こそ、まずは大学院進学に挑戦してみるのはいかがでしょうか。



札幌での学会にて（筆者は左から2番目）

# 大学院へ行こう

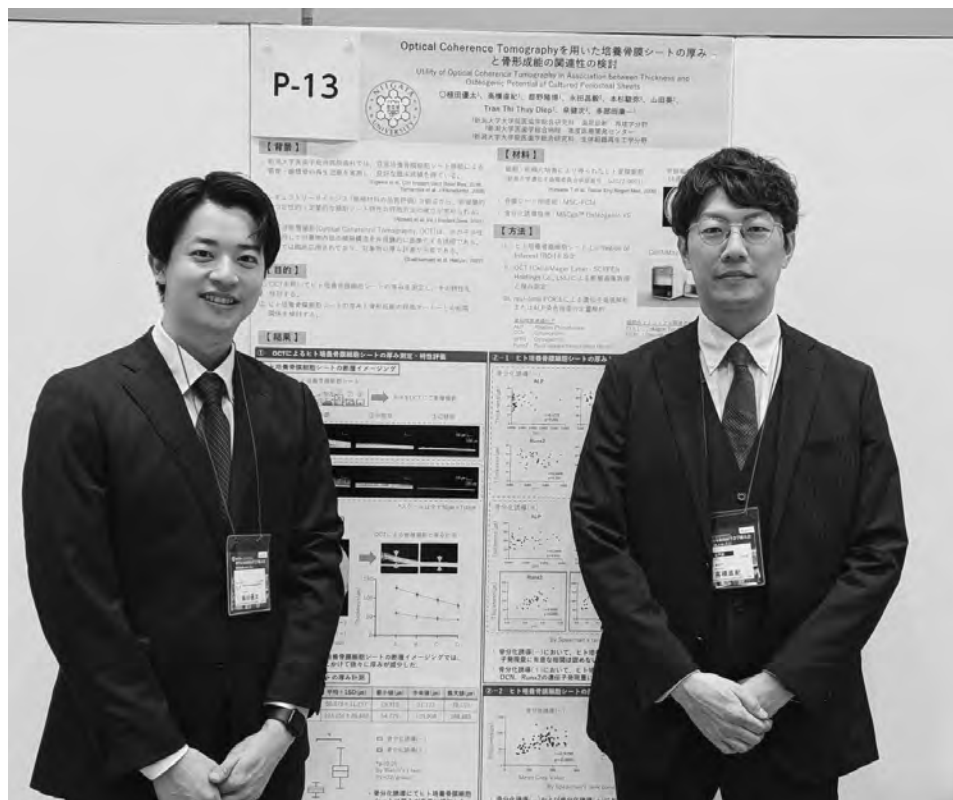
歯周診断・再建学分野 大学院3年 植田 優太

この度、「大学院へ行こう」ということで原稿執筆の機会をいただきましたため、自身の経験を踏まえてご紹介できればと思います。私が大学院に進学するきっかけは、大学6年の臨床実習でした。当時の私は歯科医師になって患者さんを治療するイメージが持てず、このまま社会に出て大丈夫かと将来に不安を感じていました。また、専門的な知識・技術を身に付けたいという思いもあったところに、歯周診断・再建学分野の先生から大学院に興味ないかと誘われたことがきっかけで大学院進学を決意しました。

大学院3年目となった今に思う大学院の魅力とは、多分野の様々な専門性を持った先生や海外留学生など、様々な人と共に治療・研究することにより、幅広い視野やネットワークを持てることで

はないかと思います。多種多様な人と関わることは、論理的思考力や客観的視点、対人コミュニケーションなど歯科医師としてだけでなく、人として成長できる機会が多くあるのではないのでしょうか。私自身も大学院進学により成長できたと感じています。

最後になりますが、大学院は修了までに4年を費やします。4年間を価値・意味あるものにできるかどうかは自らの努力次第ですが、自身が成長するためのヒントや助けが必ずあると思います。また、大学院在学中にも将来についてゆっくり考えることができますし、新たな選択肢が見つかるかもしれません。少しでも興味を持っている方はぜひ勇気を持って大学院に進学してみてはいかがでしょうか。



日本歯周病学会（札幌）にて（筆者左）

# 大学院へ行こう

う蝕学分野 大学院4年 齋藤 瑠 郁

縁あって「入学者のことば」に続き、大学院4年になった今「大学院へ行こう」を担当します。

さっそくですが、学生や研修医の皆さん、少しでも迷っているならぜひ大学院へ。その理由は、研究者としても臨床家としても成長できる時間になるからです。

まず研究者について。前提として、私はもともと研究に漠然とした興味があり、今後も研究活動が続けたいと思っています。3年前、初心者にありがちな失敗をしたと書きましたが、今でもそんなことは多く、長いであろう研究人生の最初の4年間で初心者を脱するとは全く思っていません。この原稿と並行して書いた学会抄録は真っ赤に添削されて返ってきていますし…。では何が成長か。「先生に教えてもらおう」から、「先生とディスカッションしよう」になった（近づいた）点を成長と自己評価しています。論文執筆や学会発表も経験が増えてきて、最初よりはマシになったと信じています。研究が面白いかどうかは実際にやってみなければ分かりません。不安もあるでしょう。でも、自分の手で何かを発見するって、カッコ良くないですか？研究に飛び込む理由はそ

のくらいで十分です。

次に臨床家について。大学院生活では臨床の時間が限られるのは確かです。その中でどれだけ挑戦するかが重要です。私は研修医の頃からう蝕学分野でお世話になり、当初は1歯の根管治療を中心に担当しました。大学院進学後は、全顎治療に積極的に挑戦し経験の幅を広げています。ありがたいことに、周囲には経験豊富な先生方がたくさんいて、所属科の専門領域に限らず、補綴治療や外科治療にも挑戦できています。大学院生の立場は面白いもので、学部生からは先生と呼んでもらっていますが、まだ学生です。難しいことを考えず先生方に素直に頼れる最後のチャンスかもしれません。これが意外と魅力的な点と感じています。

正直なところ、大学院に進学してから体力的にも精神的にもハードだと感じることは何度もありました。でも、なんとなんとなんとなっています。未来を想像すると、今以上に体力がある時期はおそらくもう来ません。大学院進学はたくさんの人・事に出会い、学べる選択です。今だからこそそのかけがえない経験ができます。皆さん、ぜひ大学院へ。一緒に多くのことに挑戦しませんか。



バイオフィルム研究グループの先生方と。筆者位置：後列中央